

# 第5回 出土文化財展



瀬戸山I遺跡



掛川占城跡



吉岡大塚古墳



瀬戸山I遺跡



吉岡大塚古墳

日 時：平成21年7月8日(水)～7月12日(日)  
午前9時から午後5時まで  
※8日(水)・9日(木)は午後7時まで  
※12日(日)は午後4時まで

場 所：掛川市立中央図書館 1階 生涯学習ホール

2009 掛川市教育委員会生涯教育課

ほたてがいがたこふん  
珍しい帆立貝形古墳の発掘調査  
わだおかこふんぐん よしおかおおつかこふん  
**和田岡古墳群 吉岡大塚古墳**

1. 調査地 掛川市高田
2. 調査原因 史跡整備
3. 調査面積 185 m<sup>2</sup>
4. 調査期間 平成20年10月～平成21年3月
5. 調査内容



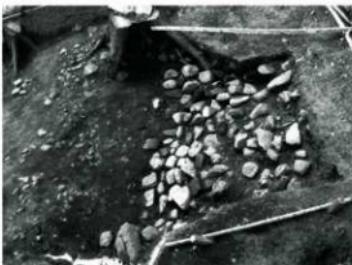
全景(南から)

ぜんぱうこうなんから

国の史跡に指定されている和田岡古墳群のうち、吉岡大塚古墳は、普通の前方後円墳に比べ前方部が短く、上から見ると帆立貝に似ていることから帆立貝形古墳と呼ばれる、珍しい形の古墳です。古墳が造られた時期は、古墳時代中期（約1,600年前）と考えられています。古墳の規模は、全長55m、後円部の直径が42m、現状の墳頂部（後円部頂上）の標高67.96m、古墳を取り巻く溝（周溝）底の標高が60.5mを測ります。掛川市教育委員会では、平成19年度から3か年かけて史跡整備のための発掘調査を行っています。平成20年度は、後円部、前方部の調査を実施しました。



後円部南側の調査



後円部南側の上段葺き石

平成19年度の調査で、後円部の南・東・北側に幅1.4～1.7mのテラスがあることがわかつっていましたが、今回、西側にもテラス状の構造が見つかり、テラスが後円部を取り巻くように一周している可能性が高くなりました。テラスに接する上段斜面からは、葺石を検出しましたが、それぞれの箇所により葺き方が異なっていました。北側と南側の葺石は、石を積み上げていたのに対し、東側斜面の葺石は、墳丘にはめ込むような形で固定されていました。葺石の葺き方は、大きな石を使った縦横方向の石列で区画をつくり、そこに小ぶりな石をはめ込むように葺かれることが一般的です。今回の調査では、東側と北側の葺石から縦方向の区画の石列が見つかりました。東側の区画の石列は最下段に長さ30cmの大きな石を据え、その上に径20cmほどの石を一列に積み上げて造られていました。吉岡大塚古墳の葺石に使われている石は、古墳が立地する河岸段丘の基盤の礫層に見られるものであり、周溝部分を掘り下げたときに掘り出された石が多く利用されているものと考えられます。

また、後円部の調査では、墳頂部の埋葬施設を探りましたが分かりませんでした。

前方部の調査では、後円部の西斜面から前方部の西側平坦部にかけて幅0.75m～1.5mのトレンチを設定し、前方部の構造を調査しました。その結果、前方部西側斜面から、直径約20cmの石を据えた葺石が検出され、前方部の斜面にも葺石があったことが確認されました。

今回の調査では、円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪が出土しました。



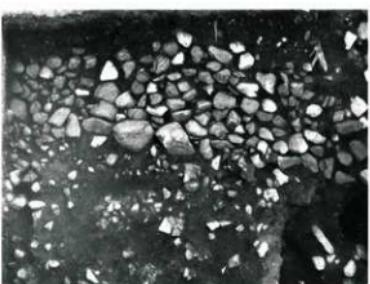
後円部東側：上段の葺石とテラス



はめ込むように固定された葺石



後円部北側：上段の葺石とテラス



後円部北側：積み上げられた葺石



前方部から後円部をのぞむ



埴輪が出土した様子

かぎ  
稻作開始の鍵をにぎる土器が出土  
なかにしいせき  
**中西遺跡**

1. 調査地 掛川市満水
2. 調査原因 農道の新設
3. 調査面積 320 m<sup>2</sup>
4. 調査期間 平成 20 年 10 月～12 月
5. 調査内容



調査地全景  
(西から)

調査地は、もともと谷であった場所で、建物跡は見つかりませんでしたが、縄文時代から弥生時代の土器などが大量に発見されました。そのうち、約3,000年から2,500年前の縄文時代晚期のものが最も多く出土しており、この周辺が土器の捨て場であったことが考えられます。

そして、出土した土器の中には、縄文時代の終わり頃（2,500年前）、北九州地方で使われた土器と同じ形の壺が1点含まれていました。この土器は、稲作を生活の中心とする人たちが使っていた土器であると考えられています。一方、土器とともに、石劍という縄文時代に特徴的な祭祀の道具が川上しておらず、これを使っていた人々は、從来からの狩猟採集による生活を送っていたことが考えられます。これらの出土品は、ここに住んでいた人たちの生活が、從来の狩猟採集を中心とする生活から、稲作を中心とする生活へ変化したことや物語るものかもしれません。



石劍が出土した様子



北九州地方と同じ形の壺

たてあなじゅうきこあと  
重なり合う堅穴住居跡を発見

## 瀬戸山Ⅰ遺跡

1. 調査地 掛川市高田
2. 調査原因 茶畑の改植
3. 調査面積 1,500 m<sup>2</sup>
4. 調査期間 平成20年8月～10月
5. 調査内容



顔料がつまた壺

調査地は、原野谷川により形成された和田岡の河岸段丘の中央部のやや西寄りに位置します。

調査では、弥生時代後期（約1,800年前）から古墳時代中期（約1,600年前）までの堅穴住居跡28軒、掘立柱建物跡、多数の土坑（様々な用途のために地面に掘られた穴）・小穴が発見されました。堅穴住居跡は、6mを超える大型のものもみられました。

堅穴住居跡は密集し、重なり合っていたので、同じ場所で何回も建てられたことが考えられます。遺物は、弥生時代後期の大型の壺、甕などの土器のほかに、黒曜石ややじり、磨製石斧、砥石などの石器が出上しました。その他、珍しいものとして、古墳時代中期の堅穴住居跡からは、赤色の顔料がつまた壺が発見されました。



調査の様子



竪穴住居の床の様子

## こみょういせき 古明遺跡

1. 調査地 掛川市菌ヶ谷

2. 調査原因 住宅の建設

3. 調査面積 14.56 m<sup>2</sup>

4. 調査期間 平成20年8月

5. 調査内容

個人住宅の建設に伴う調査で、幅1.4mの狭い範囲の調査でしたが、小穴が5個と整地層が検出されました。

整地層からは、古墳時代後期(約1,450年前)から奈良時代(約1,250年前)にかけての約200年間の土器がまとまって出土しました。土器の中には、集落からあまり出土しない種類のものも含まれていました。この場所で、古代に整地工事が行われた理由は何だったのでしょうか。



土器が出土した小穴

## かけがわじょうあと たけ まる 掛川城跡 (竹の丸)

1. 調査地 掛川市掛川

2. 調査原因 竹の丸整備事業

3. 調査面積 83 m<sup>2</sup>

4. 調査期間 平成20年12月

5. 調査内容

竹の丸は掛川城の北縁に位置する郭くわです。



礎石根固め石

今回の調査は、国登録有形文化財・掛川市指定文化財

である掛川市竹の丸の整備に伴い、書院跡、淨化槽埋設部分(主屋と米倉の間)、土星の3か所で行われました。書院跡では、建物の礎石とそれを支える根固め石が発見されました。主屋と米倉の間では、弥生時代後期(約1,800年前)から古墳時代前期(約1,700年前)と考えられる方形周溝墓が発見されました。また、土壘は伝承されているとおり、掛川城の土手の名残であることが確認できました。

かけがわこじょうあと  
掛川古城跡

1. 調査地 掛川市掛川  
2. 調査原因 第一小学校学童保育施設建設  
3. 調査面積 528 m<sup>2</sup>  
4. 調査期間 平成 20 年 6 月～8 月  
5. 調査内容

調査地は、第一小学校のグラウンドの北端、今川氏の家臣、朝比奈氏が築いた掛川古城の本丸



柱穴列と灌

（龍華院・角森山公園のある山）の山標に当たります。調査では、掛川古城に関わる遺構は発見されませんでしたが、江戸時代の掘立柱建物跡、溝、土坑、小穴が発見され、陶器片が出土しました。



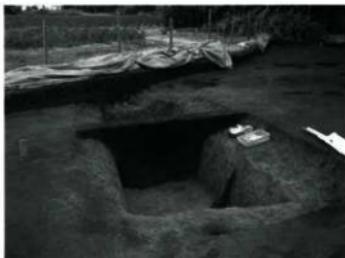
## 高田・吉岡地区の遺跡の分布と調査地点

ここからは、平成20年度に報告書がまとめられた遺跡について紹介します。

いまさかいせき

## 今坂遺跡（第6次）

第6次調査では、縄文時代中期（約4,500年前）の竪穴住居跡1軒、弥生時代後期（約1,800年前）から古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴住居跡20軒、弥生時代後期の掘立柱建物跡、弥生時代中期（約2,000年前）の土器棺墓などが発見されました。そして、古墳時代中期（約1,600年前）の大型土坑墓1基が発見されましたが、これは、和田岡古墳群の成り立ちを考える上で重要な資料となりました。また、県内でも出土例が少ない動物の顔を表した縄文土器の飾りが2点出土しています。



大型土坑墓



動物の顔を表した土器の飾り

せどやまにいせき  
**瀬戸山Ⅱ遺跡**

調査では、弥生時代後期（約1,800年前）から古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴住居跡23軒、掘立柱建物跡2棟、土坑などが発見されました。竪穴住居跡には、炭化した木材が出土したものが2軒あり、火事で焼け落ちたことが考えられます。また、市内で3点目となる旧石器の可能性がある石器1点が出土しました。

たかだいせき

## 高田遺跡（第21次）

第21次調査では、弥生時代後期（約1,800年前）の竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟のほか、溝状遺構などが発見されました。また、江戸時代の溝状遺構、土坑なども発見されました。

開発予定地内に遺跡はありませんか？  
工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在694遺跡が知られており、県内でもいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出ることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査することになり、完成が遅れてしまった——ということないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会生涯教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館・支所には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会 生涯教育課 文化振興室 文化財係  
電話(0537)21-1158



めいわ  
明和9年(1772)5月21日(陰暦)、現在の長谷小出ヶ谷

地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届出されました。  
した。掛川市教育委員会では、この日を記して市民の埋  
蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の  
向上を願い、出土文化財展を開催します。



文化財愛護シンボルマーク



衛生にやさしい  
植物性大豆油インキを  
使用しています。